がんば

島三小育友会報
発行
広報部

【第８４号】

『今から発表するからね』
よくみててよ お父さん……

空にはつきない夢がある!!

音楽専科　佐藤満恵

「気を付け、礼。」

緊張した宮津君の声。

さあ、本番だ。リハーサルの時でさえ注意された子ども達も、本番では神妙な面もち。

最初の歌「空にはつきない夢がある」　いい声が出ているが、少しずつ速くなる。待て待て、そう急ぐなと全体をぐっと睨み、速度を抑え加減に指揮をするが、はやる子ども達の気持ちは、もとには戻らない。

演技が始まった。やはり熱がはいっている。殿様や門番は、いつのまにかひげまで描いてもらって、堂々と動いている。

黒衣が出てくる度に、笑いがおこる。わざと足並みを変えたり、倒れたりして客席にうけている。練習とはずい分動きが違う。まいったなあ、と思いつつ私も思わず笑いにひきこまれた。

思えば、九月十七日、五年生が視聴覚室で音楽祭の発足式をしてから実質一ケ月間の強行練習であった。

オペレッタの練習は昼休みに行なった。毎日休まずに練習を続けることは、子どもにとっても教師にとっても、とても根気のいることである。

しかし、子ども達は意外とおもしろがって練習に参加してくれた。男の子が主力だっただけにその練習風景の賑やかで、凄じいこと。私はこの期間に五才は老け、ますますおばんに磨きをかけることになった。

合唱の練習は始業前十五分間行なったが、たった十五分間の練習でも毎日続けると声が少しずつ変わっていくのがよくわかる。

子ども達も、録音をとおして自分達の声の変化に気づき、合唱する心よさがわかってきたようだ。

小道具づくりがまたたいへんな仕事だった。時代ものなので、かつらから作らなければならない。土曜日を返上しての製作でやっと間にあわせた。

すべての過程で、担当学年の先生や、まわりの先生方の協力を得、やっと当日に至った。

今、私の手元に輝く一五七の〝ひとみ〟

会場一ぱいに広がるハーモニー、きらきら光る星の中で、天使の声を全身にあびながら、私は最高に幸せであった。

『教育講演会

10月　日 白山公民館にて』

いじめはやめよう！
子育てのリズムは

先般、「いじめ」についての講演を拝聴させていただきました。肩の凝らないお話しで、感心（歓心）させられました。

私共の身近に、深刻な「いじめ」を聞かない事は、幸いな事ですが、「蟻の一穴」と言う事もあります。子供達の言う、小さな「いじめ」から考えていかなければならないのではないでしょうか。

私達大人が、子供達自身が、諸先生方の御協力の下、「いじめっこ」「いじめられっこ」にならない様、努力していきたいものです。

子を見ること 親にしかず

大切なリズム

少年センター補導委員　松本　博

育友会などのお世話で「イジメ」についての講演を聴講した。

現代子ども気質を年表による過去三十年間の社会背景を重ねながら具体的にわかり易いお話で子育ての終った私も感銘を受け、反省させられるところが多かった。

若いおとうさん、おかあさん方が多数聴いておられたが、どの様に吸収され、子育てに生かして下さるだろうか。

自分なりによく消化し、自分の子も他人の子もやさしく見つめ、子育ての姿勢を見なおして下さい。

先月の会議で、実に腹の立つ話を聞きました。

最近、保育園に乳児をあずけに来るのに赤ちゃんの「おむつ」の交換もせずにつれて来たり、熱があるのに気付かぬ母親がいるとか。

幼児になり、小学校入学前後頃は寄ってたかって猫可愛いがり。

公共の場所で騒ごうと、汚そうと知らぬ顔。それを注意されると「ホラ！おじさんから叱られるよ」と注意した者が悪い様な態度。

なまいき盛りになり、生活指導上問題があらわれても、「うちの子はおとなしいから友達にさそわれて」と、全然自分の子の姿が見えない親になっています。

子育てにはその生育に応じて、キチンとした生活のリズムとシツケが必要ではないでしょうか。

そうすることで自分も他人も大切にし、ガマンする心も養われ、イジメを含めた問題行為も防止出来るのではないだろうか。

小さい時のシツケに失敗すると年令が進むにつれて親も子も苦しむことになります。

自分が子育ての真唯中にいるときは気付かないことが多く、子どもの日常生活についても肝腎なところを見落していて、回りからのアドバイスも中々すなおに聞き入れることが出来ないものです。

今年は中学生の非行が取沙汰されていますが、これらの子ども達は中学生になってから急に変ったのだろうか。小学校時代にその要素が芽ばえていて、担任や関係機関からの指導を家庭で「重大な問題」として受けとってもらえなかったのではないでしょうか。

子を見ること親にしかず、と言われますが、そこには生れた時から親子の濃やか心の交流がつくり出す生活があってこそと思います。

家庭生活の中で、子育てのリズムをこわさない様にしましょう。

きちんとさせよう

坂上町　宮原　智恵子

「原稿を御願いします」と広報部の方から言われた時には、本当にびっくりしてしまいました。何しろ書くこと、話すこと、歌うこと、全てダメ、聞くことだけは何とかよいのですが、そんな私にも小・中・高と三人の子供がいます。

皆それぞれに、むつかしい時期に突入しているものですから、悪戦苦闘の毎日といったところです。

何と言ってもわが家の一番の問題は、しつけでしょうか。「もっと小さい時からきちんとしてたらもう少しは」と後悔する事ばかり。

男と女では考えが違うのでしょうか、しつけの問題となると、どうしても夫と衝突してしまいます。

これではいけないとも思いますが、中学生の子供は、父親、母親それぞれ違う意見を望んでいる様にも思うのです。

だから、子供一人一人に対しても、しつけの方法を変えなければいけないのではとも思っています。しかし実際に行うことは非常にむつかしい事です。思う事と行動が伴わない事が多いからです。

子供は親の後姿を見て育つと言いますので考えさせられる事ばかりです。子供の言った事に対しても自分の子供の頃を思い返しその時の親の気持ちが少しずつ今親になって初めてわかってきました。

自分の時と余り変わらない子供を見てると、こんなところまで似なくてもよいのにと思う事が時としてあります。本当に悪いところばかり似て困ったものです。やはり自分の子供のせいでしょうか。

親として反省する事ばかりですが、これから先も皆さんの意見等を参考にしながらやっていこうと思っています。

父親参観

11月27日

お父さんやっぱ来たね

下川尻町　鵜川義顕

参観日の前日子供が学校から帰って来るなり「お父さん、明日参観日には来るとね？」私「参観日じゃんば行かにゃんじゃろもん」と言いますと、子供「やっぱ来っとね」と、後はニコーニコーして私の顔を見て見ぬふりでした。

察するところ、やはり子供ながらにうれしい気持ちと、少々緊張したような気持とが入りまじってどうしようもないような様子でした。

さて、当日教室ではお父さん、お母さんが教室に入ると、始めのうちは授業どころではなく、後ばかり見て、「あっ、○○さんのお父さんの来ちょらす。」「おっ、○○さんのお父さんのかっこ良か。」とか、先生もたまりかねてか、「ハイ、全員後を見なさい。」と言われて、「○○さんのお父さんはどの人ですか。」と一人ノ紹介される始末でした。

勉強は算数の九九の時間で、一年生の時とくらべると、子供達の授業に対する態度が数段積極的な事にまず気付きました。

一年生では、手を挙げる子供が大体決まっていたのに対して、二年生になると分かった子供は早かれ遅かれ、全員手を挙げてやかましいくらいに「ハイ、ハイ」と声をあげて居りました。中には、あらぬかぎりの大声を出して手を挙げているにもかかわらず、なかなか自分に当てられず、少々むくれ気味の子供もいて、なんとも口元がゆるんでしまいそうでした。自分の子供に当った時は、まるで自分自身に当てられたような気持になって親まで緊張してしまったりして……。

授業の内容も我々の頃と違って一つの九九にしても、ものすごくかみくだいて分かりやすく教えられることに、先生の御苦労と忍耐力に対して感心するやら、感謝するやらでした。

授業参観の後は学年別に集会があり、二年生は大隅先生の講話と懇談会がありました。

非行の芽ばえについてというお話でしたが、その中で子供を非行に走らせない為には、まず規則正しい生活をさせること、これがまず第一にあげられましたが、その前に親その者が、子供に言えるような規則正しい生活を送らねばならない、と言うこと。一口に言ってしまえば簡単なようですが、はたして規則正しい生活を実行している親がどれ程いるか？となると、私も自信なく頭を下げる部類のようです。

しかし、子供を横道にそらさせない為には、不完全ながらも親が子供の生活態度、言葉づかい、服装等に気を配って行く以外にないとの結論に自分なりに達した次第です。

何だか分かった風なことばかり申し上げましたが、今回のような参観は毎年なされてもっと多くの父兄の方々に参加して戴きたく思います。

学校を近い存在に！たくさん来てください！

白山町　田中裕明

父親参観が行なわれると言うので、久し振りに学校に行ってみた。子供達の、元気に、そして無邪気な顔で騒いだり、飛び回ったり、また、にぎやかな学校生活や授業時間の昔も今も変らない様子を見て、私自身懐古したものです。

しかし、この様な子供達の天真爛漫な表情とは別に、今、陰湿ないじめや、授業についていけない子供、非行の増加など、連日、新聞等で報道されている現実と、その事実を見るとき、父親として真剣に考え、行動する時期にきていることが痛感させられました。

だが、事前のアンケート実施などが行なわれた割には、父親の参観が少なかった様ですが、子供達の日常生活や教育に関することでもあり、学校が遠い存在とならないよう心がけたいと考えているが、日程や時間帯なども工夫しながら多くの参加を得ることも必要かと思います。

未来をになう子供達を育てるため、あの無邪気な、そして、天真爛漫な子供達の表情を本物にするため、親として、先生方や地域の人達と一緒に努力し合いたいと考えた次第です。

次回は是非 父親の参観を

広馬場町　荒木　修

最近マスコミ等で、大きな問題として取りあげられているのが、非行問題である。二年の部会では大隅先生の講話があり、「非行のめばえ」というテーマで討論がされた。子をもつ父親としての問題や店内での万引などの発言もあり、とても中身の濃い一時間でした。

私自身、商売をしているので、一日を振り返ってみても子供達と接する時間が少なく、朝食も別で、夕食は一緒にと思っているが、たまには別の時もある。宿題もあろう、親と話しがしたいだろうし、一緒にＴＶも見たいだろうなどと考えると今回の「非行のめばえ」と全く関係がないと言い切れないと思った次第です。皆さんも子供をもつ親として心ならず頭を病める時がくるかも知れませんが、その時になって人任せにせず、どんな小さな事でも子供の立場を理解して、一つ一つ解決して行きたいと父親の一人として考えております。

最後に授業参観で子供の外での姿を見て、又大隅先生の講話で、「非行のめばえ」のお話を聞き大変勉強になりました。

次回もチャンスがあれば、これに関係する事を望みたいものです。

九Ｐ大会に参加して

会長　小島　健一

「子どもの幸せを求めて計画的、継続的に行動するＰＴＡ」をスローガンに、第30回九州ブロックＰＴＡ研究大会は、去る11月22・23日長崎市において開催され、当育友会からも、小生のほか、竹下、江川、児玉、柴田、高見の各役員が出席しました。

まず、22日は全九州から集まった九千人の関係者が十の分科会に分れての研究討議で私達は、人権教育をテーマとした第四分科会。二人の発表者から同和教育への取組み、それを実践する教師像などの提言がありましたが、要約すれば、部落差別や障害者への対応、いじめの問題など人権学習の取り組みについて学校と家庭、そしてＰＴＡが相互に連携をとって学習を進めていくことの必要性が説かれた訳です。

23日は長崎市民会館で開会式が行なわれ、二中ＰＴＡ及び宮津前会長の表彰などのあと全体会に移り、各分科会などの報告、大会宣言、決議文発表と続き、午後からの記念講演は、千葉工業大教授の木村治美先生、演題は「心の時代に」―心とは時間である。時間を節約すれば、生活はやせ細って行く。時間をケチケチするな。旅の例をあげても昔は歩いていたので自分をみつめる時間、考える時間があった。現在は、プロセス抜きのものが多すぎる。子供に対しても、昔は「勉強しなさい」がトップ、現在は「早くしなさい」がトップ。早くすることよりプロセスをふませて、育てることが重要なのに……。等々、具体例をあげての講演は、非常に解り易く印象的でありました。

自転車の正しい乗り方教室

島原地区交通安全協会
婦人交通指導員・寄稿

自転車も 乗れば 車の仲間入り

自転車は左側を通ります

自転車の二人乗りはしません

自転車は一列で走ります

と、私達は、何度も何度も、みんなに言ってきました。

だけど、どうでしょう。

街中を走っているのを見ると、交通ルールを知っているのか、知らないのか、守っていない人達が多くみられます。

どうしてでしょうか……。

十一月三十日、みんなの自転車の乗り方を見てみると、危かしくって、とても心配になりました。

「自転車も乗れば車の仲間入り」です。

自転車に乗る一人一人が、交通ルールを守らないと、大きな事故につながります。

もっと、もっと、沢山練習して、自転車乗りに自信がもてるようになるまでは、道路へは出ないようにしましょう。

最後に、家庭でも、もっと交通安全について考え、時には家族みんなで、交通ルールについて、話し合う機会を作ってほしいと思います。

大菊づくり初挑戦

六年生担任

菊花香る秋の一日。体育館には六年生が五月から半年間、丹精込めて作った大輪菊が約二百鉢、今が盛りと競い合って咲いています。

日本の秋を象徴するかのように、赤、白、黄の色もあざやかに厚物あり細管ありと多種多様の菊の中で静かに一人立たずんでいると、菊の精の話し声が聞こえてきます。

「ねぇ、みんな!!今年の夏は猛暑が続き、とても夏はこせないと思っていたけど、夏休み中も六年生は当番で朝な夕なに、わたしたちのことをうるおして、冷たいシャワーをかけてくれたので、青々とした葉ですごせたね。」

「フカフカのベッドも、汗びっしょりになって蚊にさされながら腐葉土とりに行ってくれたそうだよ。」台風避難のこと、病虫害の消毒や肥料を与えてくれたこと、まだまだ菊達のヒソヒソ話が続いています。

突然、明るい笑い声が体育館に広がり、

「ぼくの菊は優秀賞かもしれんばい。」というはずんだ声。子ども達は水かけにきたのです。一鉢一鉢に話しかけるようなしぐさで如露を運んでいる姿を見ていると、一人一人の心に潤いと安らぎを与えてくれる菊に感謝の気もちさえ湧いてきました。

菊づくりのねらいは、根気強さ、やさしいいたわりの気もち、自然を愛する気もちなどたくさんの体験的学習の効果がこめられています。このような体験をもとに、家庭でもさらに親子共々何かをすることによって対話も生まれてくると思います。親子を結ぶカスガイは家庭でも「親子で共に汗する」ことではないでしょうか。

『本当に菊づくりをしてよかったなあ。』どの子の観察ノートの最後のページには、その一言が書き添えてありました。

次の一鉢、アネモネの花の芽も精一杯初冬の陽を浴びて巣立つ日を待っています。

おじいちゃん もっと長生きしてね

六年四組　田浦裕一朗

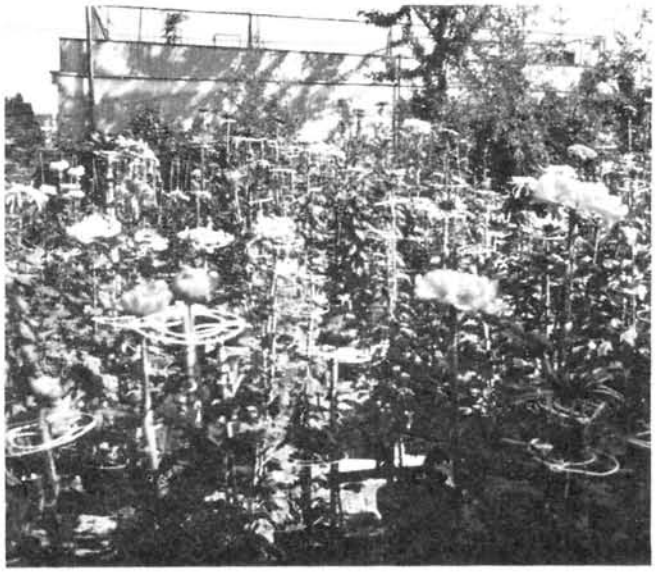
僕がこの菊を一番見せたい人は、おじいちゃん、おばあちゃんたちです。どうしてかというと、うちのおじいちゃんが、「きれいな菊を見て、はればれした気もちになりたいな～。」といったからです。そこで、この菊を見せて喜んでもらい、このくきのように長生きしてもらおうと思いました。そして、今日、こうして菊まつりを開いて見てもらっています。

おじいちゃん、おばあちゃん、もっと長生きしてね。僕はこういう気もちができたということは、とてもいいことだと思います。

それは、いいかげんに作っていた菊を通して、だんだん自然に親しむことだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんたちを喜ばせようという気もちまでがでてきたことです。

菊って不思議な力をもっているのかもしれないね。いいかげんに作っていたのが、いつの間にかこんな気もちに…。でも、それは菊じゃなく自然の力なのかもね?。

できれば来年も菊を作ってもらい、こんな体験をして、老人ホームの玄関にもかざってもらいたいな。きっと喜ぶよ、おじいちゃん、おばあちゃんたち。ね、五年生のみんな。



菊づくりして

六年三組　前田いずほ

菊を私たち六年生でつくることになったとき、始めは、きれいな花がさくのか心配でした。それに適当に水をかけるだけでいいだろう、と考えていましたが、まったくの大ちがいでした。

菊は、ほかの植物のようにはいかず、なえをかぬま土に植えてから、かれ葉を山へとりに行き、くさらせ、手でもみ、くずにしとうふうに最初から最後までたいへんでした。それに台風という困難もありました。その時は、何人かの先生方や生徒、御父兄の方々が学校へわざわざ来てくれ、私たちの重いあのはちを風がふきあれる中、室内へと運んでくれました。本当にありがとうございました。

今は、みんなの努力も実り、みごとな花が開いています。この花は、私たち一人だけでつくったものではありません。いろんな人の協力があり、やっとできた花です。みんなの期待を受け一段と菊は美しく私たちの胸にさいています。

こんなすばらしい経験のきっかけをつくっていただいた先生方を始め、御両親の方々に感謝したいと思います。

育友会町内対抗 バレー大会に参加して

崩山町　伊東作蔵

バレーボールゲームは21点先に取れば勝ちとなっているのが普通のケース。強敵坂上チームとの激戦は三セットにもつれこみ、わが崩山も必死。親睦融和の四文字もどこかへ消し飛んで、大声あげての好ゲームでした。大砲宮原、原賀の両エースで打ちまくる坂上に崩山はエース酒井の一枚看板。ジュースで一点リードされたときは、こりゃだめかと一瞬観念。勝利の女神はまだ崩山に味方してくださった。豪樹しゃんのサーブが相手コートの角に落ちて、27点目だった。がっくりしていた坂上ナインの姿もちらっと見えたが、こちらはわあわあ喜んですまない気がしましたね。宮原キャプテンが握手を求めて来られて、我に帰り、お互の健闘を讃えあったものです。

決勝は三小チーム。新エース田中先生と高木君を徹底マーク。これで優勝と相成りました。夜の打上げも大いにはずんだのはもちろんのことです。

農家の多かった崩山で、バレーがはじまったのは十数年前のこと。町内の空地に柱を立てて、ネットを張り、魚網をもらってきて防球ネット代り。仕事を終って集まるのが、夜の八時。照明は大工さんが持ってきて、インスタントナイターでした。ボールが高くあがると暗闇に消え、すうっとどこからともなく落ちてくる。神秘的な練習。網を越えて草むらへボール探し。ひらくちが出はせぬかとこわかった。こうした努力が実ったか、バレー好きが増えました。崩山はバレーの強かといわれるようになりました。

育友会バレーも、新しいチームがどんどん出てきて、毎年新顔もあり、益々盛りあがっていくことと思います。大会運営の役員の方々ご苦労様でした。

バレーボール大会成績

Aパート
一位　崩山
二位　島三小
三位　坂上
下川尻

Bパート
一位　白山町
二位　湊町
三位　桃山
みなと

Cパート
一位　西八幡
二位　栄町
三位　緑町
白土下

夏休みの球技大会等も、チームの監督さん達が、大変熱心に指導して戴いたお陰で、両チーム共元気で大会に出場出来ました。

秋季大運動会の出場並に、育友会町内対抗バレーボール大会、今年13パートで出場、見事に優勝が決まり、日頃の練習が実を結び、本当に最高でした。

また育友会では、児童公園の清掃を受け持ち、除草にも精を出しております。廃品回収も、年三・四回実施しており、これも育友会全員の協力の賜と、深く感謝しております。

今後、益々充実した育友会になることを期待しつつ、ペンをおきます。

町内紹介

白山町　本多三郎

元船津町内より白山町へ移転して今年で三年、町内の雰囲気に、子供達も大分なれました。

今年四月に家内より、突然、お父さんは今年白山育友会の代議員になりましたと聞き、これは大変だと思いました。私の仕事が日曜日・祭日と休みがなく、夜も遅いからです。説明を聞きますと、従来育友会では高学年の家庭から選ぶと聞き、納得はしたものの、会員の皆様へ大変迷惑をかけるのではと心配でした。

編集後記

六十年最初の「がんば」を、会員の皆様にお届けしましたのは、先日の様な気がしてましたのに、早いものでもう今回は84号、四回目の発行となりました。

編集にはベテランの、坂庭先生、部長、部員さんの中にまじり、私達数人の新米部員もやっと慣れ、今からだと思っていたのも束の間、次回で最後となりました。

今回は、父親参観、教育講演会、九P大会、六年生の菊作り、他に色々と話題も豊富に満載致しております。

会員の皆様、「がんば」に目をとおされ、如何でしたでしょうか。

私達、広報部では、毎回原稿をお願いするにあたっては、いつも同じ方だけでなく、なるだけ多くの方々に書いていただく様心がけております。

皆様で、御意見・御希望などございましたら、どうか広報部までご投稿下さい。

次回の「がんば」発行は、来年三月の予定です。

今後共、会員皆様のご協力をよりお願い申し上げます。

（Y）